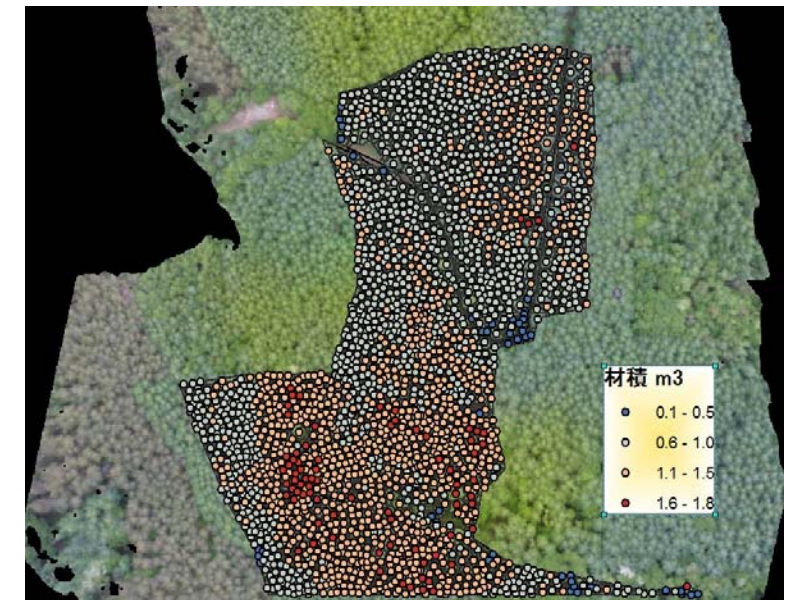
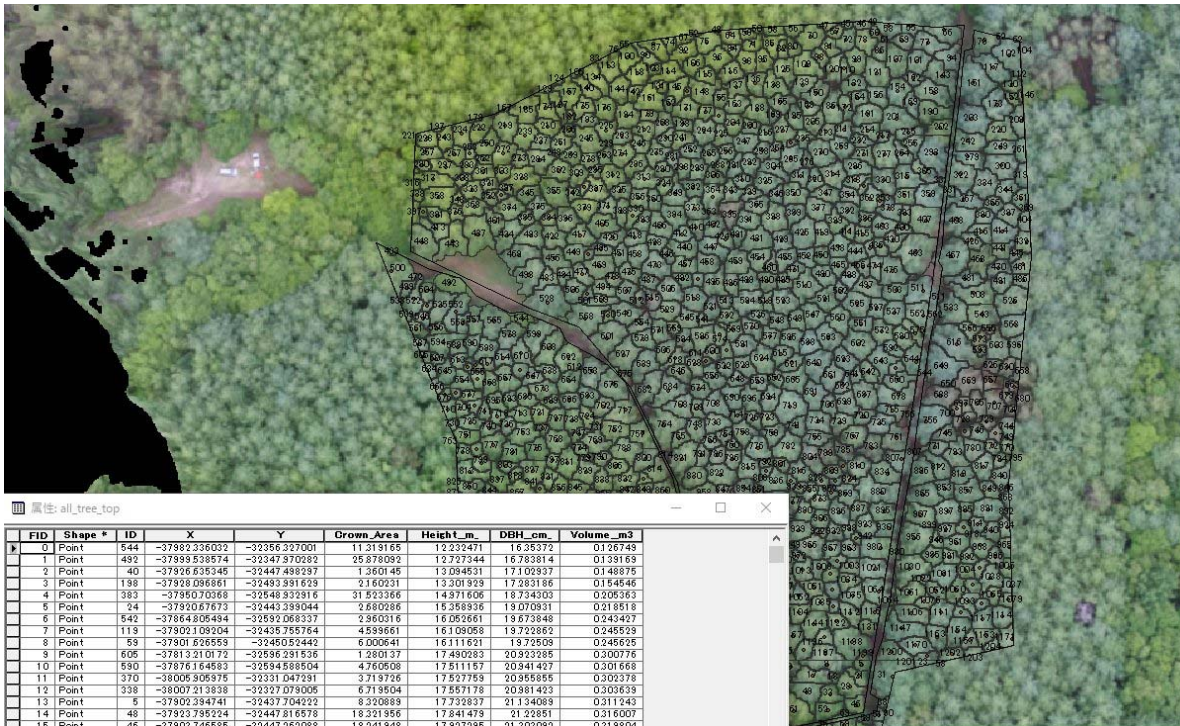


ドローンを活用した精密な森林資源管理技術

事例の概要

- 伊那市は、平成29年度より全国の市町村に先駆けてスマート精密林業「長野モデル」を現場レベルで取り組みを進めている。
- 【活用場所】 長野県伊那市長谷 浦団地カラマツ人工林 林齢50～54年生、面積5ha
- 【ドローンの撮影と解析作業】 平成29年6月22日～30日
 - ①ドローンの飛行計測と片付け:1時間、
 - ②樹高補正のための現地標準木調査:2時間
 - ③画像解析作業3日間、
 - ④撮影画像のモザイク結合、疑似レーザ点群データの作成
 - ⑤全数調査による森林資源表の作成(左下)
 - ⑥GISによる樹高区分、DBH区分、材積区分(右下)
- ⑦1週間後(6月30日)に伊那市に解析結果を提出
- 7月～10月 間伐作業を地元の上伊那森林組合が実施。
- 10月 間伐後にドローン撮影し、間伐木の半自動抽出をこない、確認・検査業務の省力化を行った。



GISの材積区分で、森林資源の分布が見える化

単木レベルの全数調査の森林資源表作成 (エクセル出力)→GIS出力